

令和2年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	420	地域で支えあい、誰もが安心して暮らせるしくみをつくる
施策	421	福祉に対する理解を深め、地域活動への参加を促す
施策の目標	多くの区民が地域福祉について理解し、地域福祉の理念や活動が区民に知られ、さまざまなプラットフォームにより地域の福祉課題の解決が図られ、地域で暮らす住民同士の支えあい、助けあい活動が積極的に行われています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「現在ボランティア活動・地域活動をしている」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	15				20.0					25.0
実績	14.2									

指標名	小地域福祉活動・ふれあいサロン等実践地区数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	44				80					110
実績	44									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
ボランティア活動や小地域福祉活動のPRとともに、地域福祉の担い手の発掘・育成や、効果的なコーディネート体制の構築を通じて、活動に参加しやすい仕組みづくりが求められている。成果指標に挙げたボランティア登録者は、近年高齢化が進んでおり、今後は若年層を取り込む工夫が求められる。地域福祉活動は、地域での活動数の増加など、少しずつ取り組みの成果が上がっている。「ハートライン21」などの有償ボランティア活動は、平成23年4月から利用時間の拡大を行い、利用者数・利用回数とも増加傾向にある。あわせて、障害者に対する理解が促進されるよう、啓発事業等を継続して実施していく。	H29	509,635
	H30	526,852
	R1	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	地域福祉活動は、地域での活動数の増加など、少しずつ取り組みの成果が上がっている。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
ボランティアセンターの相談機能やコーディネート体制等の更なる充実を図り、区民のボランティア活動を着実に推進し、地域福祉活動への積極的な参加を促す必要がある。また、障害者への理解を深めるための、継続的な啓発が必要である。	
【今後の具体的な方針】	
民生委員・児童委員活動のPR、小地域福祉活動の活動地域の拡大など地域福祉に関する担い手づくりの強化に努める。また、障害者問題啓発事業において、毎年度の実施状況を踏まえ、適正に実施していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	地域福祉計画推進事業	462	1,969	2,431	200	現状維持
					200	平成31年度
2	民生・児童委員協議会等経費	6,118	9,843	15,961	90	現状維持
					84	平成31年度
3	民生・児童委員施設見学会	1,277	984	2,261	120	現状維持
					104	平成31年度
4	すみだ福祉保健センター管理運営事業費	383,082	984	384,066	80%	現状維持
					87.2%	平成30年度
5	すみだボランティアセンター管理運営費	42,846	984	43,830	100	現状維持
					97	平成31年度
6	社会福祉協議会補助金	18,831	984	19,815	82	現状維持
					55	平成31年度
7	すみだハード・ライン21の事業助成費	7,002	984	7,986	5100	現状維持
					3995	平成31年度
8	墨田区原爆被害者の会補助金	320	98	418	15	現状維持
					15	平成31年度
9	すみだひとり親さくら会補助金	80	98	178	15	現状維持
					15	平成31年度
10						
11						
12						

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	地域福祉計画推進協議会の開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2	令和7年度	目標	2	2	2	2
				実績	2	2	2	2
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2	3	2	2	2	2
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>改定がある年度については協議会を3回、計画の実績報告を行う年度については2回開催する。協議会の開催により、他機関との連携を図り、地域福祉計画掲載事業が計画どおりに進んでるかなど、問題を共有することができるため。</p>							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	事業評価がAの割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
100		令和7年度	目標	100	100	100	100	
			実績	99	93	93		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		100	100	100	100	100	100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>地域福祉計画では、各掲載事業をA（計画どおりに進んでいる）B（計画に遅れが生じている）その他（計画の見直し等の必要が生じている場合）で評価をしている。各事業が計画どおり進んでいるかどうか、地域福祉計画が推進されているかの指標の一部となるため。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	本計画は、社会福祉法等により各地方自治体が策定することとなっている。また、区、社会福祉法人、区民等の地域福祉の主体に対し、推進の指針を示すものである。社会状況の変化により、地域福祉の役割が増大傾向にあり、必要性が高いため、計画の改定や評価を継続・推進していく必要がある。

課題・問題点
<p>地域福祉の推進を評価する場合、事業により目標値の数値化が課題である。 計画改定では、協議会等を適切に開催し、個別計画と総合調整や情報共有を図る必要がある。</p>

補助金 名称	フォーラム実行委員会補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令				厚生課厚生係		
補助概要	すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム（以下ボランティアフォーラム）のための実行委員会の開催や、広報用ポスターの作成や配布を行っているため。			03-5608-6150		
目的	ボランティアフォーラムをとおして区民や地域団体等が地域福祉活動を行っていくために必要な情報を積極的に提供していく。地域福祉に関する情報の周知、理解・参加の促進。					
対象	ボランティアフォーラム実行委員					
基準	区独自基準					
補助条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を逸脱した用途に供しないこと。 ・ 事業終了後、速やかに収支決算書及び実績報告書を区長に提出すること。 ・ 補助金に余剰が生じたときは、区長に返還すること。 					
経過	開始年度		終了予定			
	平成28年度 災害に備えるまちづくり ～地域福祉を支えるプラットフォーム～ 平成29年度 地域力でつくる支えあいのまち ～人と人とのつながりで困りごとを解決しよう～ 平成30年度 縁が育む 地域の力 ～町会・自治会とボランティア～ 令和元年度 つながる地域のボランティア～心を伝えあえるまち～					
議会質問 の状況						
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 開催までに、実行委員会を4回程度行い、第5回の実行委員会で結果報告を行う。					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		250	250	250	250	250	250
決算額（令和2年度は見込み）		230	206	235	214	246	250
財源	国						
	都	115	103	118	107	123	125
	その他						
一般財源		115	103	118	107	123	125
執行率（％）		92.0%	82.4%	94.0%	85.6%	98.4%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ボランティアフォーラム開催数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1	令和7年度	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域福祉の担い手として活動をされている方の情報交換の場・学びあいの場となっているため。さらに、新たに活動したいと思っている方、興味はあるがなかなか活動につながらなかった方が地域福祉やボランティアに関わるきっかけを得る場となっているため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	ボランティアフォーラム参加者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		200	令和7年度	目標	200	200	200	200
				実績	200	160	160	200
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		200	200	200	200	200	200	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
実行委員や会場の規模に応じた、参加者数が、ボランティアへの認識を深めてもらう方の増加につながるため。また、地域福祉関係者や地域福祉に関心のある方が、問題共有や情報交換することで、地域福祉やボランティアへの活性化につながるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	ボランティアフォーラムの開催は、地域福祉やボランティア活動の啓発において、重要な場となっている。今後も、地域福祉関係者が地域に根付き、区民や地域団体が地域活動を行っていくために必要な情報を積極的に提供していく必要がある。

課題・問題点

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	全体会の開催				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		9	令和7年度	目標	8	6	6	9
				実績	8	6	6	8
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6	6	9	6	6	9
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	委員が一堂に会する全体会で、関係行政機関との連携、必要な知識の習得等が図れる会議であるため。3年に1度の一斉改選期には、改選事務に伴い回数が増える。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	全体会への民生委員・児童委員出席率				単位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
90		令和7年度	目標	90	90	90	90	
			実績	88.8	87.5	89	86	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		90	90	90	90	90	90	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
全体会の出席率が、委員同士の相互連携、個人の資質向上、知識・技術の習得に資するため。目標値は、これまでの実績から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域福祉活動の担い手としての民生委員・児童委員活動は非常に重要で、協議会運営を円滑に行うことで、委員個々の活動サポートにつながるため、今後も必要な事業である。

課題・問題点
欠員地区が生じているため、民生委員・児童委員活動の周知の強化を図り、町会・自治会とも連携して、欠員地区を無くしていくよう努める。

補助金名称	墨田区民生委員・児童委員協議会に対する補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	墨田区民生委員協議会補助金交付要綱			厚生課厚生係
補助概要	墨田区民生委員・児童委員協議会（以下「協議会」という。）に対し、民生委員・児童委員及び主任児童委員が参加する研修経費や、各種会議等への補助を行っている。			03-5608-6150
目的	墨田民生委員・児童委員の拠り所となっている協議会の円滑な運営を図り、委員個々の活動をサポートするとともに、委員間の連携を育む。			
対象	墨田区民生委員・児童委員協議会			
基準	区独自基準			
補助条件	協議会から前年度の実績報告と補助金申請を受け、内容を精査し、墨田区から補助金を交付する。			
経過	開始年度		終了予定	
議会質問の状況				
その他	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）			
特記事項				

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
予算額（事業費）		5,282	5,705	5,788	5,658	6,024	5,485	
決算額（令和2年度は見込み）		5,105	5,704	5,620	5,496	5,219	5,485	
財源	国							
	都	1,500	1,500	1,523	1,536	1,517	1,716	
	その他							
一般財源		3,605	4,204	4,097	3,960	3,702	3,769	
執行率（％）		96.6%	100.0%	97.1%	97.1%	86.6%	100.0%	
補助金の成果	手段に対する指標 （活動指標）	指標	地区会				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年（H28）	H29	H30	R1
		14	令和7年度	目標	14	28	28	14
				実績	14	28	28	14
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28	28	14	28	28	14
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地区（7地区）ごとに開催され、地区内の情報・意見交換、必要な知識の習得が図れる会議であるため。 3年に1度の一斉改選期には、地区会の回数は減るが全体会の回数が増える。							
	目的に対する指標 （成果指標）	指標	地区会への民生委員・児童委員の出席率				単位	％
		最終目標値	目標年度		基準年（H28）	H29	H30	R1
		90	令和7年度	目標	90	90	90	90
				実績	85	87	86	84
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		90	90	90	90	90	90	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
地区会への出席率が、個人の資質向上、自己啓発、知識・技術の習得に資するため。 目標値は、これまでの実績から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域福祉活動の担い手としての民生委員・児童委員活動は非常に重要で、協議会運営を円滑に行うことで、委員個々の活動サポートにつながるため、今後も必要な事業である。

課題・問題点
民生委員・児童委員の負担軽減のため、支援策を研究していく。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	施設見学会の開催				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	施設見学会を実施することで、研修機会の創出に資するため。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	施設見学会の参加人数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		120	R7	目標	120	120	120	120
				実績	100	122	120	104
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	120	120	120	120	120	120
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
委員の参加を促し、委員の見聞を深めることに資するため。 目標値は、これまでの実績から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	施設見学会は、民生委員・児童委員の資質向上等に有効な方法の一つであるため必要である。

課題・問題点
民生委員・児童委員の資質向上に向けて、研修内容の充実に努めていく。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	福祉保健センター利用者数（各事業総合 計数）				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		48,000	令和7年度	目 標	48,000	48,000	48,000	48,000
				実 績	53,483	57,259	55,507	54,733
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	利用者数が、福祉に対する理解や地域活動への参加促進の度合いにおいて重要であるため。また利用者数を維持していくことを目標とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	福祉保健センター満足度				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
80		令和7年度	目 標	80	80	80	80	
			実 績	82.9	81.3	87.2		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		80	80	80	80	80	80	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
満足度を指標とすることで、事業実施による効果を見ることができる。（モニタリングによる大変満足＋満足の割合） 現在8割の方に満足していただいているので、これを低下させないように維持することを目標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	機能訓練・相談業務のほか、各種講座を開催し多くの方が参加している。福祉サービスを総合的に提供する複合施設であるため、今後も関係各課と連携して事業を展開していく。

課題・問題点
新保健センターの建設を踏まえ、当施設における今後の事業内容について調整が必要である。

補助金名称	社会福祉法人墨田区社会福祉事業団運営費補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	社会福祉法人に対する助成に関する条例			厚生課厚生係
補助概要	社会福祉法人墨田区社会福祉事業団運営のための人件費、事務費等			03-5608-1163
目的	墨田区の出資のもとに設立された団体である「社会福祉法人墨田区社会福祉事業団」運営のため			
対象	社会福祉法人墨田区社会福祉事業団			
基準				
補助条件	助成対象事業以外の使用不可			
経過	開始年度	昭和63年度	終了予定	
	昭和63年10月 社会福祉法人墨田区社会福祉事業団 設立			
議会質問の状況				
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
予算額（事業費）		102,173	107,603	112,388	115,920	118,966	118,397	
決算額（令和2年度は見込み）		97,173	87,453	91,561	89,834	96,622	118,397	
財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		97,173	87,453	91,561	89,834	96,622	118,397	
執行率（％）		95.1%	81.3%	81.5%	77.5%	81.2%	100.0%	
補助金の成果	手段に対する指標（活動指標）	指標	福祉保健センター職員数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	令和7年度	目標	5	5	5	5
				実績	5	5	5	5
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	5	5	5	5	5	5
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	法人を円滑に運営していくための職員数 現状で利用者の満足度も維持されているため、目標値とした。							
	目的に対する指標（成果指標）	指標	福祉保健センター満足度				単位	％
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	82.9	81.3	87.2	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
法人が円滑に運営されていることも利用者の満足度と関連するため、これを低下させないよう維持することを目標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	墨田区が設立した社会福祉法人であるため、今後も円滑な運営と事業展開のための支援をしていく。

課題・問題点

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ボランティアセンターの認知度				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		30	令和6年度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	手話・点訳・音訳講習会修了者				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
100		令和7年度	目標	100	100	100	100	
			実績	94	84	85	97	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		100	100	100	100	100	100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
各種講習会の修了者を指標とすることで、地域で活躍できる人材育成の効果がわかる。基準年の実績値から、2割アップを目標とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域を巻き込んだボランティアの育成を図り、地域福祉を推進する。

課題・問題点

補助金名称	すみだボランティアセンター管理運営費			主管課・係（担当）
根拠法令	社会福祉法人に対する助成に関する条例			厚生課厚生係
補助概要	すみだボランティアセンターは、ボランティア活動に対する区民の理解と参加を促進するため、ボランティア活動の推進・援助及び社会福祉団体の活動の推進・援助に関するなど、社会福祉法に定める社会福祉協議会の事業と同様の事業を行うこととされていることから、財政的補助を行うものである。			03-5608-1163
目的	社協が行うボランティア推進事業（ボランティアセンター運営）に対して財政的援助を行うことにより、ボランティアの育成・活動支援を図り、地域福祉の推進に資する。			
対象	社協が行うボランティア推進事業（ボランティアセンター運営）			
基準	区独自基準			
補助条件	（内容） 事業費補助 ・事業費 （各種講座、広報活動、ボランティアまつり、災害ボラセン整備等） ・運営費（推進委員会等運営、通信費、消耗品、備品等） ・維持管理費（夜間管理、日常清掃、光熱水費等） ・ハンディキャブ貸出事業（車両整備・保全等） ・ボラセン分館管理運営費（事務所家賃、夜間管理、日常清掃、光熱水費、機器保全等）			
経過	開始年度	昭和62年	終了予定	
	昭和60年7月 センター開所。区の委託を受けて墨田区社会福祉協議会が事業開始 昭和62年4月 「ボランティアセンター運営事業」が社協の自主事業となる。 （区から補助金） 平成8年4月 ボランティアセンター緑分館開設 平成18年4月 指定管理者制度が導入される。 平成18年10月 緑分館を亀沢3-20-11に移転し、名称を「すみだボランティアセンター分館」に変更する。			
議会質問の状況	[平成29年災害対策特別委員会] 災害時のボランティアの受入れについて [平成29年3定] 災害時要支援者への災害ごみへの対応について [平成30年予特] 公共施設に係る経費の削減について			
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 本事業の「負担金補助及び交付金」相当額を、社会福祉協議会への他の委託事業と同様に、「社会福祉協議会補助金」に一本化したことに伴い、令和2年度の当該予算が減となっている。			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		37,227	35,943	35,151	35,182	35,471	0
決算額（令和2年度は見込み）		36,215	34,194	34,718	35,182	34,834	0
財源	国						
	都	1,994	1,750	6,951	8,023	2,583	
	その他						
一般財源		34,221	32,444	27,767	27,159	32,251	0
執行率（％）		97.3%	95.1%	98.8%	100.0%	98.2%	#DIV/0!

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ボランティアセンターの認知度			単位	%	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		30	令和6年度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	手話・点訳・音訳講習会修了者			単位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		100	令和7年度	目標	112	112	112	112
				実績	94	84	85	97
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		112	112	112	112	112	112	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
各種講習会の修了者を指標とすることで、地域で活躍できる人材育成の効果がわかる。基準年の実績値から、2割アップを目標とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域を巻き込んだボランティアの育成を図り、地域福祉を推進する。

課題・問題点

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	ボランティアセンターの認知度				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		30	令和7年度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	ふれあいサロン活動地区及び小地域福祉活動 実践地区の合計数				単 位	地区
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
136		令和7年度	目標	55	64	73	82	
			実績	56	56	55	55	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		91	100	109	118	127	136	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
近隣住民が気軽につながりをつくるための取組みや、自主的に行う支えあい活動がどのくらい活発に行われているかを指標とした。また地域福祉計画に掲げている数値目標を目標値とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域を巻き込んだボランティアの育成を図り、地域福祉を推進する。

課題・問題点

補助金名称	社会福祉協議会補助金		主管課・係（担当）
根拠法令	社会福祉法人に対する助成に関する条例		厚生課厚生係
補助概要	各種事業を実施している社会福祉協議会に事業費の補助を行う。		03-5608-1163
目的	各種事業を実施している社会福祉協議会に事業費の補助を行うことにより、墨田区内における社会福祉の増進に資することを目的とする。		
対象	社会福祉法人墨田区社会福祉協議会		
基準	区独自基準		
補助条件	各種事業を実施している社会福祉協議会に事業費の補助を行う。 （内容） ・児童福祉事業、老人福祉事業、障害者福祉事業、車イス貸出事業、緊急援護事業等各事業を実施。 ・生活福祉資金貸付事業、応急小口資金貸付事業等の実施。		
経過	開始年度	昭和35年	終了予定
	昭和35年 墨田区社会福祉協議会発足 昭和37年 社会福祉法人の認可		
議会質問の状況その他	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）		
特記事項			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
予算額（事業費）		8,543	13,040	10,653	10,128	18,831	238,752	
決算額（令和2年度は見込み）		8,543	13,040	10,653	10,128	18,831	238,752	
財源	国			405	1,647	2,246	14,168	
	都	4,077					40,590	
	その他							
一般財源		4,466	13,040	10,248	8,481	16,585	183,994	
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
補助金の成果	手段に対する指標 （活動指標）	指標	ボランティアセンターの認知度				単位	％
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)		H29	H30	R1
		30	令和6年度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に対する指標 （成果指標）	指標	ふれあいサロン活動地区及び小地域福祉活動実践地区の合計数				単位	地区
最終目標値		目標年度	基準年(H28)		H29	H30	R1	
136		令和7年度	目標	55	64	73	82	
			実績	56	56	55	55	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標	91	100	109	118	127	136	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
近隣住民が気軽につながりをつくるための取組みや、自主的に行う支えあい活動がどのくらい活発に行われているかを指標とした。また地域福祉計画に掲げている数値目標を目標値とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	地域を巻き込んだボランティアの育成を図り、地域福祉を推進する。

課題・問題点

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	ボランティアセンターの認知度				単 位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		30	令和6年度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	協力会員の派遣延べ回数				単 位	回
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
5700		令和7年度	目標	4800	4900	5000	5100	
			実績	4889	5233	4549	3995	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		5200	5300	5400	5500	5600	5700	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
手助けを必要とする利用会員と家事援助サービスを提供する協力会員を、社会福祉協議会が繋ぎ、福祉サービスを提供した実績として会員が派遣された回数を指標とし、年間100件ずつ増加することを目標とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	引き続き多様な福祉ニーズに対応し、地域福祉を推進する。

課題・問題点
サービスの担い手となる協力会員の確保に努めていく必要がある。

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ボランティアセンターの認知度				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		30	令和6年 度	目標	26		27	
				実績	27,1		27,8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	28		29		30	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	皆が役割を持ち支えあう地域共生社会の実現には、地域のボランティア活動の基盤となるボランティアセンターの役割が不可欠である。そのため地域住民の30パーセントがボランティアセンターを認知していることを目標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	協力会員の派遣延べ回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5700	令和7年 度	目標	4800	4900	5000	5100
				実績	4889	5233	4549	3995
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		5200	5300	5400	5500	5600	5700	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
手助けを必要とする利用会員と家事援助サービスを提供する協力会員を、社会福祉協議会が繋ぎ、福祉サービスを提供した実績として会員が派遣された回数を指標とし、年間100件ずつ増加することを目標とした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	引き続き多様な福祉ニーズに対応し、地域福祉を推進する。

課題・問題点

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	運営費補助金				単位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		320	令和7年度	目標	320	320	320	320
				実績	320	320	320	320
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	320	320	320	320	320	320
		実績	320					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	会の運営を補助することで、公益性の高い会の活動を支援することになるため。目標値は、会の決算額から算出している。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	会の活動(定例会、写真展、平和式典参加)状況				単位	回
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
15		令和7年度	目標	15	15	15	15	
			実績	15	15	14	15	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		15	15	15	15	15	15	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
写真展開催や平和式典への参加状況等を通じ、活動内容を確認することができるため。目標値は、会の事業計画から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	原爆被害者支援の観点から、会の円滑な運営に資するものである。平和・原爆写真展の来場者数は年々増加していることから、引き続き会の運営を支援する。(令和元年度は減少:猛暑の影響あり)

課題・問題点
戦後70年以上経過し会員の高齢化が進んでいるため、活動縮小となった場合は補助事業の見直し等が必要である。

補助金名称	墨田原爆被害者の会補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	地方自治法第232条の2			厚生課厚生係
補助概要	墨田原爆被害者の会「墨田折鶴会」運営事業補助（定例会、写真展、平和式典参加、研修等）			03-5608-6151
目的	区内の原爆被害者で組織される団体に対して、運営費の一部を補助することにより、恒久平和に寄与する団体の円滑な運営を促進する。			
対象	墨田原爆被害者の会「墨田折鶴会」（以下「会」という。） （会員数34名）			
基準	区独自基準			
補助条件	事業報告書、決算報告書及び補助金に係る事業の予算・決算の証拠書類の提出			
経過	開始年度	昭和59年度	終了予定	
	平成12年度 補助金額を減額			
議会質問の状況				
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） すみだ平和・原爆写真展：毎年8月に開催 墨田折鶴会は、東友会（東京都原爆被害者団体協議会）に加入			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
予算額（事業費）		320	320	320	320	320	320	
決算額（令和2年度は見込み）		320	320	320	320	320	320	
財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		320	320	320	320	320	320	
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
補助金の成果	手段に 対する指標 （活動指標）	指標	運営費補助金				単位	千円
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1	
		320	令和7年度	目標	320	320	320	320
				実績	320	320	320	320
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	320	320	320	320	320	320
		実績	320					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	会の運営を補助することで、公益性の高い会の活動を支援することになるため。目標値は、会の決算額から算出している。							
	目的に 対する指標 （成果指標）	指標	会の活動（定例会、写真展、平和式典参加）状況				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1	
		15	令和7年度	目標	15	15	15	15
				実績	15	15	14	15
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		15	15	15	15	15	15	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
写真展開催や平和式典への参加状況等を通じ、活動内容を確認することができるため。目標値は、会の事業計画から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	原爆被害者支援の観点から、会の円滑な運営に資するものである。平和・原爆写真展の来場者数は年々増加していることから、引き続き会の運営を支援する。（ただし、令和元年度については来場者数は減少。連日30度を超える猛暑が原因の一つと考えられる。）

課題・問題点
戦後70年以上経過し会員の高齢化が進んでいるため、活動縮小となった場合は補助事業の見直し等が必要である。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	運営費補助金				単位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	80	80	80	80
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
		実績	80					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	会の運営を補助することで、地域福祉に寄与する会の活動を支援することになるため。目標値は、会の決算額から算出している。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	会の活動（定例会、交流会、相談の家の電話相談）状況				単位	回
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
15		令和7年度	目標	15	15	15	15	
			実績	15	15	15	15	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		15	15	15	15	15	15	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
交流会や相談会の実施状況を通じ、活動内容を確認することができるため。目標値は、会の事業計画から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	会の活動支援は、会員相互の交流や相談機会の創出に資するものである。ひとり親世帯の定義が社会情勢とともに変わっていることから、会の活動内容や方向性等を確認する必要がある。

課題・問題点
会員が減少し活動縮小となった場合は、補助事業の見直しが必要である。

補助金名称	すみだひとり親さくら会補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	地方自治法第232条の2			厚生課厚生係
補助概要	すみだひとり親さくら会運営補助（定例会、交流会、生活相談、研修等）			03-5608-6151
目的	区内のひとり親世帯で組織する団体に対して、運営費の一部を補助することにより、地域福祉に寄与するの同会の円滑な運営を促進する。			
対象	すみだひとり親さくら会（以下「会」という。） （会員数70世帯）			
基準	区独自基準			
補助条件	事業報告書、決算報告書及び補助金に係る事業の予算・決算の証拠書類の提出			
経過	開始年度	昭和59年度	終了予定	
	平成12年度 補助金額を減額 平成29年度 会の名称を「墨田区母子寡婦さくら会」から「すみだひとり親さくら会」に変更			
議会質問の状況				
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 会は、「ひとり親Tokyo（東京都ひとり親家庭福祉協議会）」に加入			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
予算額（事業費）		80	80	80	80	80	80	
決算額（令和2年度は見込み）		80	80	80	80	80	80	
財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		80	80	80	80	80	80	
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
補助金の成果	手段に 対する指標 （活動指標）	指標	運営費補助金				単位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	80	80	80	80
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
		実績	80					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	会の運営を補助することで、地域福祉に寄与する会の活動を支援することになるため。目標値は、会の決算額から算出している。							
	目的に 対する指標 （成果指標）	指標	会の活動（定例会、交流会、相談の家の電話相談）状況				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	令和7年度	目標	15	15	15	15
				実績	15	15	15	15
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		15	15	15	15	15	15	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交流会や相談会の実施状況を通じ、活動内容を確認することができるため。目標値は、会の事業計画から算出している。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	会の活動支援は、会員相互の交流や相談機会の創出に資するものである。ひとり親世帯の定義が社会情勢とともに変わっていることから、会の活動内容や方向性等を確認する必要がある。

課題・問題点
会員が減少し活動縮小となった場合は、補助事業の見直しが必要である。